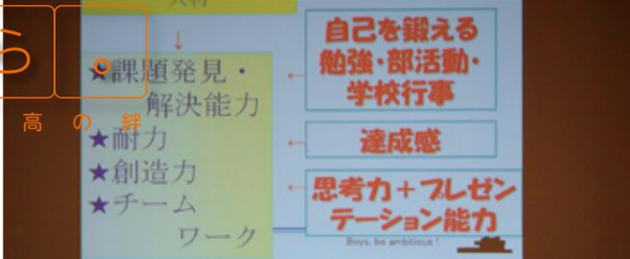


いっしょに Parents, Teachers and Students

育てていきたいから

保護者、教員、そして生徒が紡ぐ一高の絆



笑顔

PTA広報委員長 荻原有紀

広報委員として、学校説明会や一高祭、強行遠足などの行事に協力させていただき、学校説明会や一高祭、強行遠足などの行事に協力させていただく中で伝統を受け継いでいく大切さ、一高生の絆を間近で感じることができました。そして、どんな場面でもたくさんの笑顔と笑い声があふれていることが羨ましくもありました。

いつまでもその笑顔をたやみなく、高校生活で培った友情をずっと大切にしたいと願っています。

高校生ともなると家庭ではなかなか見ることのできない笑顔や涙...様々な表情を、紙面を通してお伝えすることができれば嬉しく思います。



●強行遠足に先立ち、9月26日(水)にPTA協力者会議(全体会・分科会)が行われました。今年度も1200名近い保護者の皆様の協力を得ることができ、感謝申し上げます。

●7月16日(月・海の日)、コラニー文化ホールにて、中学3年生と保護者を対象に学校説明会が行われました。生徒自身による学校紹介と、吹奏楽部、ア・カペラ部、弦楽部の演奏がとても好評でした。PTAの方にも受付・案内業務にご参加いただきました。

SGHDOORプロジェクト

スーパー グローバル ハイスクール



SGH活動も5年を経て、県内外でその活動が認められています。探究科1期生も今春、卒業を迎え大学合格という面でも成果を上げています。



ブランドフォーラム



科学の甲子園(県大会)



全国高校生フォーラム



エネルギー研修(1年)



台湾研修旅行



グローバルセミナー

平成30年度 主なPTA活動

- 学校PTA総会:4/27
- PTA専門委員会(強行遠足・広報):5/14・7/11・7/19・2/5・2/14
- 県高P連定期総会(県立文学館):5/18
- 進路研修会:4/27(3年)・5/31(2年)・11/22(1年)
- マナーアップ運動:5/16・6/20・11/14・1/16

- 関東高P連大会(栃木):7/6~7
- 一高説明会(コラニー文化ホール):7/16
- 全国高P連大会(佐賀):8/20~22
- 強行遠足協力者合同会議:9/26
- 第92回強行遠足:10/6~7
- PTAだより発行:7/23・3/1

PTA広報委員
(編集担当)
滝沢 修
山口 智子
黒沢 理恵
篠原 康代
根津 芳恵



<http://www.first.kai.ed.jp/>

一高ホームページは、保護者向けのサイトも充実!!
保護者向けに発行している便りは、学校ホームページでも閲覧できます。
学校行事や生徒会活動、トピックスなどの情報が盛りだくさん!!
ぜひご覧ください。一高の「今」を実感していただけます。

携帯電話からは、右のQRコードよりアクセス!!



発行◎山梨県立甲府第一高等学校PTA
〒400-0007 山梨県甲府市美咲2丁目13-44 tel.055-253-3525 fax.055-253-3527
発行日◎平成31年3月1日
編集◎山梨県立甲府第一高等学校PTA広報委員・総務広報係

甲府第一高等学校
PTAだより

Parents, Teachers and Students.
We are KOFU FIRST HIGH SCHOOL.

Vol.18

KOFU FIRST High School
PTA Profile Paper,
We are KOFU 1st vol.18 March, 2019
山梨県立甲府第一高等学校PTA



自分の限界に打ち勝った達成感
一生の自分の自信となる



永遠に一高生！ PTA会長 水村 勝



私は一高大好き人間です。高校時代も卒業したくありませんでした。卒業後もなんらかの理由をつけて一高に関わっていたくて卓球部OB会や同窓会に入り交流を続けて来ました。一高は卒業してからが大事です。大勢の先輩との繋がり、社会に出て卒業生というだけで色々な話題が共有できます。今年の卒業生は特に色々な面で特別な境遇にあります。

2000年生まれ、探究科一期生、平成最期の卒業。SGHという制度は一高に今までに無かった新しい風を吹き込ん

『山梨に住む』 校長 堀井 昭



高校卒業を機に親元を離れ生活する生徒は多い。そうではない生徒も、就職の際に山梨を離れることになるかもしれない。ご存知の通り、本校ではグローバル教育を掲げており、将来世界に羽ばたいていく生徒たちの姿を想像しながら教育活動を行っている。すなわち生徒たちがグローバルな人材となり、成長した姿で巣立っていくのは嬉しいことなのであるが、一方でできるだけ山梨にいてほしい、戻ってきてほしいという親の本音、教師の本音も少なからず耳にする。山梨の人口減や、地域の衰退を食い止めることも、若い者の力を必要とするところである。

でくれました。伝統という重みの上に新しいチャレンジを重ねる。まさに「BOYS BE AMBITIOUS」と「日に新た」の校是を改めて考えさせられます。人生の中で一番多感な大事な時を一高で過ごせたことは子供達にとって非常に意義のあることだと思います。強行遠足のつらさや友達との思い出を胸に抱いてこれから待ち受ける躍動の人生に輝きあれ！

結びにPTA活動に協力を頂いた保護者の皆様、先生方、同窓会役員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

若者が山梨で生活するためには、条件整備と価値観の変革が求められる。企業誘致による就職先の確保や、生活、子育て環境の整備は行政でなければ取り組めないが、個人レベルで貢献できることもある。それが山梨の魅力の訴求である。都会にはない地域の人のつながりや自然環境の豊かさ。山梨に戻ってくる価値を大人たちがどれだけ伝えていけるか、どれだけ若者に感じてもらえるか。親も教師もそういう意識をもって過ごすことこそが、グローバルな人材を招き、山梨の発展へと繋がっていくのではないだろうか。



第92回強行遠足に参加して

PTA強行遠足委員会委員長 橋本 厚志

多くの関係者の皆様の協力のおかげで、伝統を重ねる甲府一高・第92回強行遠足に全線巡視に携わせていただき、とても貴重な経験をさせて頂きました。最後の最終学年で、やっと娘が完走してくれました。努力も知っているのも、女子ゴールに娘の姿を確認した時、不覚にも涙が出てしまいました。男子は昼間の暑さ、そして夜の寒さ、小雨、濃霧、そして強風。過酷な条件下で走り続けた男子生徒たちの頑張りに、30度近い暑さの中、汗びっしょりで前進を続けた女子生徒たち。目標に向かって一丸となって取り組む生徒たちの成長を実感させて頂き、とても感激しました。第93回強行遠足の開催を楽しみにしています。

限界 その先にあるもの

PTA強行遠足委員会副委員長 上矢 敏幸

強行遠足でのゴールまでの道程は想像を絶するものだと思います。特に今年は例年になような炎天下の中、生徒達はいつもより汗を流しながらの強行遠足になりました。長野に入り暗闇の中での孤独との戦い、夜が明けてから、動かなくなった足を引きずりながら一歩でも前を目指して進んでいる生徒達の表情には限界を超えて、その先にあるものがどんなものなのか？その答えを見つけるためにゴールを目指して走り続けていたように表情から感じとれました。完走できた生徒も途中で棄権した生徒も、それぞれの限界を感じ、それぞれに何かを感じられた強行遠足だったのではないのでしょうか？

(第68回 全国高P連佐賀大会 報告)

「広めよう 高めよう 慈しむ心」

PTA会長 水村 勝

第68回全国高等学校PTA連合会大会が佐賀県にて8月20、21日に開催されました。テーマは「広めよう 高めよう 慈しむ心」でした。私は堀井校長と共に参加致しました。全国から一万近くの関係者が一堂に集い未来の高校生活について話し合う非常に貴重で有意義な大会に参加でき大変感銘を受けました。沖縄の離島の高校の少子化に敢然と立ち向かう姿勢またそれを支える行政の対応。基調講演のレモンさんハナワさんの力強いトークも印象が強かったです。山梨で何が出来るかを考えると私たちの無力さを感じました。首都に隣接しながらも有能な生徒が流出してしまう現実はなんとか解決したい問題です。残された短い時間で母校の発展を微力ながら全力で支えて行きたいと思えます。

(第64回 関東地区高P連大会 報告)

「考え、行動につなげよう」

～変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支えるものとして～

PTA副会長 笠井 和人

昨年7月6日より2日間、「考え、行動につなげよう」～変化の激しい社会に生きる子どもたちの社会的自立を支えるものとして～をメインテーマに第64回関東地区高P連大会が、全体会を宇都宮市で、分科会は日光市で開催され、当校からは教頭先生と役員3名で参加いたしました。

全体会の記念講演は日光東照宮特別顧問の高藤晴俊氏でした。演題は「世界文化遺産 日光東照宮の謎と真実」で、写真と軽妙なトークを交えての説明とお話は大変面白く、1時間半の講演もあっという間に感じました。2日目の分科会での発表も大いに学ぶことができました。素晴らしい大会でした。



伝統の味

PTA女性部長 清水 恵

3年間女性部として、しじみ汁作りに携わらせていただき、自己の体力と精神の限界に挑む一高生の姿に毎年深く感動させられました。そして、多感な時期にそういう機会を味わうことができ一高生が羨ましくもありました。

今年は3年生のある女子生徒に「3年間強行遠足を支えて頂きありがとうございました。毎年しじみ汁おいしかったです。」というお手紙を手渡されました。そういう想いがつながり、野辺山のしじみ汁が続いてきたのだと思います。これからも大切な伝統の味として、しじみ汁が受け継がれていくことを願っています。

強行遠足から学んだこと

3年 小山翔太郎

私は強行遠足の104キロに挑戦したいという思いで一高に入学した。しかし一年目は怪我で出場できず、二年目は想像以上の険しい道のりに自分の走りができなかった。最後の強行遠足は二年間の悔しさを胸に、強い気持ちで臨むと同時に、自身にとって二度目の104キロの挑戦に経験を活かすことを大切にしたい。走っている間、心が折れそうになることはあったが、周囲の人々の支えによって前に進むことができた。私は、強い気持ちと経験、周囲の人々の支えが自分の最大限の力を発揮させてくれたのだと思った。支えてくださった先生、先輩方、保護者の方々には感謝の気持ちでいっぱい。

最後まで頑張れた理由

2年 河口紗楽

永遠と続く登り坂、終わりが見えない辛さと苦しさ。何度も精神的・肉体的に追い込まれ、途中でやめてしまいたいと思った。しかしそんな時、沿道からの応援の声や検印所での励ましのおかげで、私は頑張ろうと思えることができた。周りの人の協力や声援は、考えていた以上に自分の中で大きな力となった。一位でのゴールは保護者の方々や先生方、また親の協力無しでは実現することはできなかった。自分一人では成し遂げられない結果だろう。来年度は三年生になり、部活をする時間も限られる。だからこそ、この恵まれた環境に感謝して、お世話になった人に恩返しができるような結果を出していきたい。

自分の限界に打ち勝った達成感 一生の自分の自信となる